

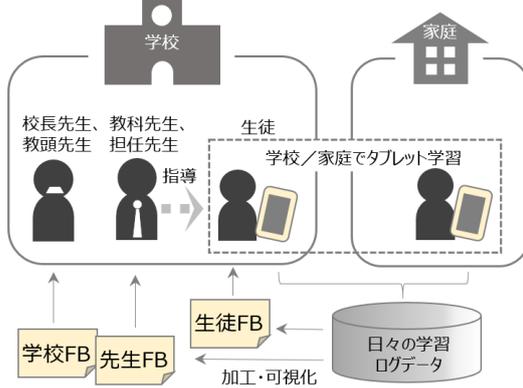
学校の働きかけと中学2年生の学習行動の変化

○岡部 悟志 木村 治生 中垣 眞紀
ベネッセ教育総合研究所

1 研究の目的と枠組み

「勉強嫌いの増加」など、中学2年生は学習上の様々な課題を抱えることが指摘されている（東大社研・ベネッセ教育総研2017）。どんな働きかけが有効なのか、岐阜市にある2つの公立中学校（計7クラス約250名）をフィールドに探索する。

図1 研究の枠組み

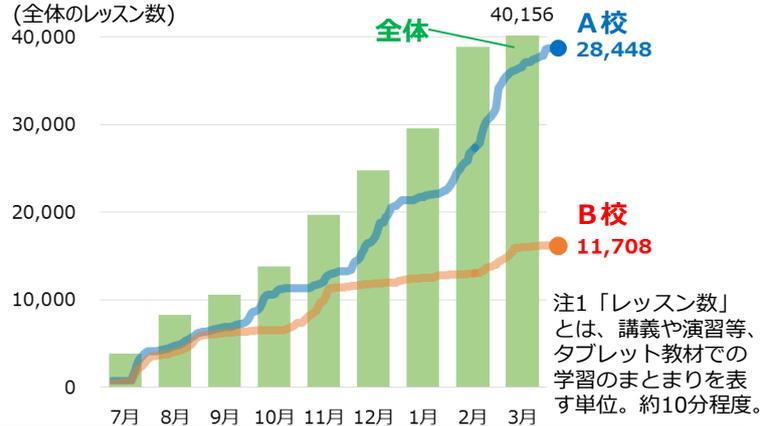


概要
生徒に1人1台タブレット教材を貸与し、学校および家庭で活用してもらった。生徒の学習ログデータから学習行動を可視化し、先生方や生徒本人にFBすることで、指導改善や学習改善につなげる試みを行った。
期間は2016年7月～2017年3月までの約8か月間。

2 学習量の推移

学習量（累積レッスン数）は日付に比例して増加した。これを学校別に分けると、とくに12月以降、両校の学習量の差が拡大していき、最終的にA校は約2.8万レッスンと、B校のおよそ2.4倍であった。

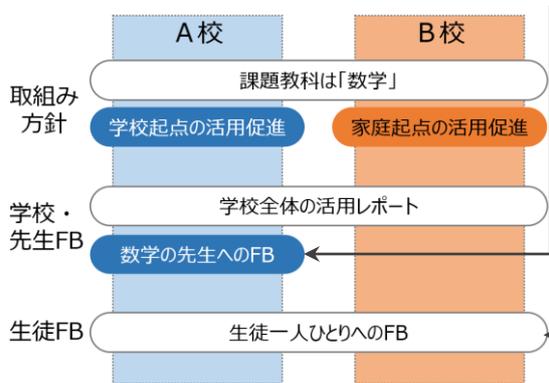
図2 累積レッスン数（棒:全体、線:学校別）



3 学校での学習と家庭での学習との連動

なぜA校の学習量が伸びたのだろうか。両校がとった取組み方針（学校と協議し決定）と、それに対応するFB内容とを整理すると（図3）、A校に特徴的だったのは、「学校を起点とした活用促進」と、それに対応して実行した「数学の先生へのFB」であった。

図3 各校の取組み方針とFB内容



生徒の正誤や取組時間を一覧化し指導改善に活用

生徒ID	科目	正誤	時間	活用
001	数学	○	15分	活用
002	数学	○	20分	活用
003	数学	○	10分	活用
004	数学	○	25分	活用
005	数学	○	18分	活用
006	数学	○	12分	活用
007	数学	○	22分	活用
008	数学	○	16分	活用
009	数学	○	14分	活用
010	数学	○	19分	活用
011	数学	○	11分	活用
012	数学	○	21分	活用
013	数学	○	17分	活用
014	数学	○	13分	活用
015	数学	○	23分	活用
016	数学	○	15分	活用
017	数学	○	19分	活用
018	数学	○	14分	活用
019	数学	○	20分	活用
020	数学	○	16分	活用

学習量や頻度を個別FBし生徒の振り返りに活用



図4は、学習場所別の学習量をA校で数学の先生へのFBが本格化した12月前後で集計したものである。これより、A校では学校での学習量が増加すると同時に、家庭での活用が増加したことがわかる。

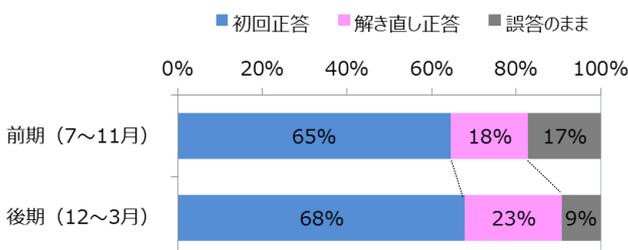
図4 学習場所別のレッスン数（A校）



4 学習の質的な変化

学習量の増加とは別の視点から、問題の取組み方に着目した分析を行ったところ、A校の数学では、一度間違えた問題の直し率が、やや増加していた。学習の質的な面でも、一定の効果があったと推察される。

図5 時期別の直し率（A校、数学）



5 まとめ

可視化された学習ログを先生の指導改善に生かす試みにより、A校では、学校と家庭での学習の双方が結びつき、生徒の学習量は大きく伸び、さらには学習の質の面の改善もわかれた。学校による働きかけが、生徒の学習全体を改善したといえそうだ。

中学2年生にとって、1日のうち学校で過ごす時間は長い（ベネッセ教育総研2013）。「重要な他者」として親に加え先生の存在が大きくなる時期でもある。今後、学校を起点とした実践的な研究の展開が望まれる。

<文献>

- 東大社研・ベネッセ教育総研（2017）「子どもの生活と学びに関する親子調査2015-2016（速報版）」
- ベネッセ教育総研（2013）「第2回放課後の生活時間調査報告書」